（別紙4-1）

NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社　エーアステス		
事業所名	グループホーム　Myほ～む童里夢		
所在地	札幌市西区西野2条1丁目2番1号		
自己評価作成日	平成28年1月11日	評価結果市町村受理日	平成28年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400865-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念を目標に入居者様を自分に、身内におきかえ、日々のケアを行っております。個々の入居者様の能力に応じ、職員と共に掃除、洗濯物、料理行っております。暖かい季節を初め近隣に散歩にお出かけしたりして地域の方々とも触れ合っております。外出レクに関しては、果物狩りや峠等に出かけております。また施設内でのレクリエーションでは、ボランティアによる演奏会や手品、パントマイム、誕生会や季節ごとの行事も行っております。常に各入居者様が「出来る事、やれる事」を積極的に行って頂き、ADLの維持・筋力の低下防止に努めて安心して楽しく活気ある生活をして頂ける様支援しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年1月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は札幌市西区の自然に恵まれた閑静な住宅街に立地し、近隣には病院や薬局があり利便性に恵まれている。2003年開設であるが3年前に現地に移住している。建物は新しく木造2階建の1ユニットで、訪問看護・介護ステーション、高齢者住宅が併設されている。職員は利用者が笑顔で安心して暮らせるように1人ひとりに寄り添い、多様な外出行事を実施するなど生活の活性化に努めている。運営推進会議は定例に開催し、行政関係者や町内会役員、家族が参加し、運営内容について検討し、サービスの質の向上をはかっている。家族との関係については、毎月「ホーム便り」を送付して利用者の暮らしぶりを伝えている。医療については、協力医療機関の定期的な往診があり、訪問看護ステーションと連携できることから、利用者や家族の安心に繋げている。地域との関係については、町内会行事に参加することなどで親睦を深めており、地域に根ざした事業所として期待されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	の協力	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や組織については日々実践出来るように、新人研修・試験を行っております。地域の方々と密に、コミュニケーションを取るように努め、心がけております。	理念はパンフレットや事業所内廊下に掲示している。管理者及び職員は日々の業務の中で理念を共有して実践しており、新人職員には理解を深めるように説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、回覧板を通じ、町内会行事に参加、又運営推進会議に参加して頂きGHへの協力や理解が得られるように努めている。	町内会に加入し、清掃作業や盆踊りなどの行事に参加している。高齢者住宅や訪問看護・介護ステーションの併設があり、ボランティアの訪問を受けるなど、地域に根ざした事業所として人々に親しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、職員が講師になり認知症の事や入居者様の状況を説明しつつ、その人への支援や理解の仕方をお話ししております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	都度、入居者様の状況報告・サービスの状況や行事内容の報告を行い、意見を元に改善点は話し合いサービス向上に努めている。	会議は年6回開催し、地域包括センター職員、町内会役員、家族が参加している。事業所運営、行事、サービス内容について報告し、討議内容は運営に反映させている。議事録は廊下に掲示し、家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と行き来する機会は余りありませんが、事業所運営やケアサービスにおいての問題点など報告しつつ、指導して頂いています。	行政担当者とは常に情報交換しており、区担当課職員は定期的に事業所を訪問し協力関係を築いている。管理者は行政が関係する会議や研修会に出席しケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように全職員が理解しケアを行っております。新人職員には、内部・外部研修への参加、又業務中において都度指導しています。	身体拘束についてマニュアルを整備している。外部・内部研修を受け、職員の認識の共有をはかり、業務中の職員の言動についても互いに配慮するように努め、身体拘束のないケアを実践している。玄関入口は高齢者住宅と共有の為、安全面から施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は外部・内部研修で学び、包括支援センターの担当者や地域の方と運営推進会議で話し合いを行っております。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて権利擁護について理解を深める勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、文章と口頭で契約内容を説明し、十分な納得を頂いてから契約を行います。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、ご家族様からの意見や要望を伺っています。又、普段から利用者様やご家族とコミュニケーションを取り、要望に答えられる様職員間で話し合いサービスに反映させて頂いております。	「ホーム便り」を毎月発行し家族に送付している。運営推進会議は家族全員に参加を呼びかけ複数の家族の出席があり、家族の意見は運営に反映するように努めている。意見箱を設置し、外部への苦情受付機関を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングとカンファレンスを開き、運営内容に関する話し合いと、利用者様の状態を共有する話し合いを行っています。利用者様の様子に関しては、カンファレンスのとき以外でも、連絡ノート等で職員間での情報のやりとりを行えるようになっています。	代表者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、勤務状況を把握し、相談し易い環境作りをしている。管理者はミーティングなどで職員と話し合い、職員の希望を聞き、代表者に面談のおり伝えている。職員の意見や提案が事業所運営に反映されるように行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状態を把握し、コミュニケーションをとり、相談、報告、連絡がしやすい職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部研修の参加を促し、参加報告を他職員にも伝える事で職員全体のスキルアップに繋げております。又定期的に内部研修を開き、介護の知識等を深める場を作っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議の参加、又他グループホームとの合同の勉強会等を行い、自分たちのホームで活かせる技術やサービス内容を取り入れる努力を行っています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はグループホームに慣れて頂く為に、職員より積極的にコミュニケーションをとり、悩み等を気楽に相談して頂ける人間関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とのコミュニケーションを取り、入居者様の事に対する些細な事でもお伺いし、又入居者様のご様子も報告する事で、ご家族様との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援をお話しの中より組み取り、それを元にケアプランを作成し支援させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、仕事等、入居者様にも協力して頂ける事はお願いし、役割を持っていただく事で充実した日常を送って頂いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からの要望等がありましたらご家族にも報告し、相談の上支援の方法を考慮し行っております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人がいらした際は気軽に過ごして頂ける場を提供させて頂いております。又馴染みの人の写真や小物を居室に飾る等して、落ち着ける環境作りに努めております。	家族や友人が来訪の折には、ゆっくり寛げるように配慮している。希望があれば家族の食事を用意したり、馴染みの美容室の人に来てもらうなど、親しい関係が継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけリビングで過ごして頂く声掛けをし、他入居者様とのコミュニケーションをとることができる場を作っております。又、職員がレクリエーション等を通じて入居者様同士の関係がうまくいくよう支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してよい関係を築けるように付き合い等を行って頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動から真意を汲み取り職員間で情報を共有しております。困難な希望や思いが伝えられない方には出来るだけ希望に添えるように支援しております。	本人が「どのように暮らしたいか」の意向を日頃の言動から汲み取るように努めている。生活歴の記録や家族からも情報を得て、職員間で共有し、できるだけ希望に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人様やご家族から入居前の生活について、センター方式によるアセスメント等を行い出来る限りその暮らしに添えるようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の中で入居者様の言動や行動を把握し、それを元に職員間で情報を共有し1人一人にあった日常生活を送れる様にする。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の希望を元に毎月のカンファレンスにてケアを中心として意見やアイディアを出し合いケアプランを作成している。	本人家族の希望を元に医師、看護師の意見も採り入れ、担当者、計画作成者を中心に職員全員がカンファレンスで検討している。毎月モニタリングを行い、3カ月ごとに介護計画を作成する他、現状に即して随時作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて、気づき等を個人ファイル等に記入し職員間での情報を共有しています。ケアプランの見直しにも活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同系列の事業所と連携を取り、本人や家族の状況やニーズに応じた支援を行わせて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練には入居者様にも参加して頂いております。町内会のゴミ拾いには可能な入居者様が参加しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から2週に1回の訪問診療を行っております。また個々のかかりつけ医に定期的に受診し協力医と連携もとれる。	協力医療機関の訪問診療が月2回定期的に実施されている。利用者希望の他科受診については、職員が協力し、結果は家族に報告している。看護師の協力があり、緊急時も含めて医療機関との連絡体制は整備されている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に変化が見られた際は直ちに看護師に相談し、適切な処置や受診が受けられるよう日常の健康管理をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の生活状況をお知らせするべく基本情報をお渡しし、安心して治療を受けられる体制としている。退院時は医療機関と相談し、ご本人の意見を聞き対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、出来るだけ早い段階でご本人やご家族、医師、看護師、管理者で話し合いされ職員同士ケアの方針を共有し対応する体制になってます。	重度化した場合の対応については早期に家族と話し合い方針を共有するよう話し合っている。看取りについては医師、看護師、職員と情報を共有し家族の希望に添い実施している。職員は看取り介護についての研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応策のマニュアルを作成し、応急手当については消防施設での訓練などを行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員と共に施設内で定期的に避難訓練を行う。また毎年防災センターへ全員で行き、見学や体験を行う。	避難訓練は年2回消防署立会いの下実施している。電気器具など2カ月に1度定期的に専門業者の点検を受けている。非常口は冬季は除雪して避難口を確保し、災害時の水や食料品の備蓄をしている。	避難訓練は町内会役員の参加協力を得て実施している。更に近隣住民の避難訓練への参加協力を呼びかけているので、実現されることを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々を充分に把握し、誇りやプライバシーを損ねる事のないようカンファレンスで話し合い、ケアの統一を図る。	職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉や動作に配慮している。個人情報記載書類の取り扱いに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が出来ない方にはコミュニケーションをはかり、時間をかけて思いや希望を表せるよう働きかけ対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての１日の基本的な流れはありますが、個々のペースや体調等を考慮し、その人らしい生活を送れるように支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用したり、毎朝や入浴後等に職員が支援し整える。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けを利用者様の意思を尊重しながら手伝って頂いております。毎日の食事で喜びを感じて頂ける様、一人一人の状態にあった調理方法、嗜好等で摂って頂いており、下膳、食器拭きにも参加して頂いております。	献立は利用者の好みを取り入れて変化をもたせ工夫している。利用者は食事の下ごしらえなど身体状況に応じて手伝い、職員は利用者と共に食卓に着き、和やかな雰囲気のなかで食事を楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養のバランスがとれた献立のもと一人一人の状態にあった形容で召し上がって頂いております。一日を通じて必要な栄養量を摂取できるよう、水分量、食事量を記録し、支援させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様に合った介助にて口腔ケアを行って頂き、残歯と歯茎の健康維持、義歯洗浄、うがいにしっかりと取り組み、歯科医と連携を図りながら口腔状態を確認しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の排泄パターンを記録し、排泄サイン、時間間隔を考慮し羞恥心に配慮した介助支援を行っております。適切な水分摂取、食物摂取、運動量を考慮し、適切な排泄誘導にて自立にむけた支援をさせて頂いております。	排泄チェック表に記録して排泄パターンを把握している。表情や動作などからも察知し、さりげなくトイレに誘導している。日中はできるだけトイレでの自立排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳等での腸内刺激や家事、清掃への参加、ラジオ体操、施設内での歩行運動を日常的に行っております。食事は、繊維質の多いものを多く取り入れ水分補給もこまめに行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じて無理強いはせず、気持ちに寄り添った入浴をしております。入浴間隔も空かないよう記録をし配慮させて頂いております。	週2回以上の入浴を実施している。体調やタイミングに合わせ、シャワー浴や清拭など柔軟に支援している。職員は親しく話しかけたり、入浴剤を使用するなど、個々に沿って入浴が楽しみとなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、生活リズムを大切にし、ご本人に合った時間や場所で休息して頂いております。夜間もご本人の眠りやすい環境作りをし配慮させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量を職員全体で把握し、見守り・介助にて服用して頂いております。医師・看護師の指示により、薬の増減調整をし、個々の症状の変化を確認しながら支援させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様にご本人の力を活かした役割を持って頂き、心の糧となる様支援しております。祝い事や季節を感じられる毎月のレクリエーション等で楽しみごと、気分転換になるよう支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には近所にお散歩へ行き、気分転換をされております。月1回は外出レク、レクリエーションにて普段は行けない様な所にでかけ、ドライブや外食等イベントに参加され、楽しんで頂いております。	春から秋には日常的に近隣散歩をしている。季節に合わせ外出行事を計画し、事業所の車で出かけている。花見、さくらんぼ狩り、薔薇園、峠、温泉、神宮参拝などがあり、生活の活性化をはかっている。希望があれば家族の同行も歓迎している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談をし、職員が管理をさせて頂いておりますが、ご本人様のほしい物や必要に応じて支援させて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の意思を尊重するように支援させて頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう毎月その月に合った装飾をし、楽しんで頂いております。又共用の空間には不快感を感じないよう配慮しております。	居間の大きな窓からは発寒河畔の美しい景色が眺められ季節感がある。壁には利用者の作品や手作りのカレンダーを飾り、家庭的な温かい雰囲気である。室温、湿度も適切で騒音もなく、冷暖房設備が完備され、快適に暮らせるように環境整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が座って頂ける様に座席の配慮に工夫をし、毎日のレクリエーションでは歌を聞いたり、工作をしたりと思い思いで過ごして頂けるよう工夫をさせて頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の思い入れのある写真や家具等又祝い事やイベントでお渡しした写真やメッセージカードを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫させて頂いております。	居室には馴染みの家具などを持ち込み、仏壇や家族写真を飾っている。自分の部屋らしく落ち着いて暮らせるように工夫している。清掃は本人と職員で行い、程よく整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の手すりを使って頂き安全に歩行をして頂いております。床には余計なものは置かず、安全に生活をして頂ける様に工夫させて頂いております。		